

嵯峨人形 犬連れ 江戸時代(18世紀) 前島秀章・久代夫妻コレクション

おぼこ雛(内裏雛) 昭和6年(1931)
伴 もと子様寄贈



野口園生
夕餉時
昭和42年(1967)



ほほえみに心和んで —時代を超えて 受け継がれてきた人形たち

佐野美術館創立55周年・三島市制80周年 記念
愛しのほほえみ—佐野美術館の人形コレクション
2022.2.19[土]—4.3[日] 掲載作品はすべて佐野美術館蔵

雛の時期にあわせて、佐野美術館の人形コレクションより優品を厳選して展示します。

雛人形や御所人形、嵯峨人形などの日本の古人形、女性たちの手遊びのお相手をつとめた明治時

代の抱き人形に、西洋のアンティークドールや、工芸としての人形表現を模索した近代作家たちの作品など、当館のコレクションは近年とても充実してきています。思わず微笑まづにいられない、表情豊かな人形たち。その中からここでは、

ごく最近新しく加わった雛人形をご紹介します。

雛祭りが盛んになった江戸時代後期、京都の御所文化を象徴する雅な雛人形に対して、趣味的な雛人形が登場しました。ともに老いてなお仲良くとの想いが込められた「百歳雛」や、和歌を詠む姿を模した「歌仙雛」などがありますが、中でも幼い子供の姿の雛人形を「稚児雛」または「おぼこ雛」といいます。佐野美術館に新収蔵となったのは、まさしく

京都からもたらされたおぼこ雛で、内裏雛と三人官女に屏風、几帳、お膳などの道具が揃っています。

内裏雛は子供らしいふっくらとした顔立ちの中に凛々しさをも感じさせ、いかにも京都のお雛様といった趣です。面白いことに、女雛よりも男雛の方が少しばかり子供っぽさの勝る表情をしています。緑に朱を効かせた豪華な装束と幼い表情の対比も見所のひとつです。官女は美しい刺繍をほどこした袿姿で、中央の三方をささげた官女

は両脇の二人に対してやや年増、ということを示すために引き眉になっています。

作ったのは京都を代表する雛師のひとり、近江屋文助(近文)こと初代櫻木宗甫で、頭は名工十二世面庄こと面屋庄次郎の作です。京文化を象徴する名人の手による、愛らしくも気品に満ちたおぼこ雛、その微笑みが皆様をお待ちしています。

(館長 坪井則子)



展覧会ポスターにみる佐野美術館の軌跡VI

『隆泉51号』につづく5年間の展覧会を、ポスターでたどります。

2017年4月～2022年2月

2017▶▶



林原美術館



2019▶▶



2021▶▶



2022▶▶

ミュージアムショップ

佐野美術館オリジナル



透鐫キーホルダー
各600円(税込)



透鐫アクセサリー
(ピアス・イヤリング)
各2,255円(税込)
※ビーズ部分は
時期により異なります

佐野美術館 × はいばら



和紙風ミニクリアファイル 4種 各440円(税込)
東京・日本橋で二百年以上つく
和紙舗 榛原(わがみほ はいばら) 所蔵の
千代紙の図柄を用いた A6 サイズのミニクリアファイル。

和紙の
ように
さらさらとした
手触り



富山スガキ株式会社
cusuri kamifu-sen
(hinamatsuri) 935円(税込)
四角く膨らむ紙風船。
飾るのはもちろん
本来の紙ふうせんとして遊ぶことも。

春の
オススメ
商品



高田織物株式会社
量縁ポーチ
各1,760円(税込)



三島商工会議所
復刻版 張子の三四呂人形里子
3,460円(税込)
三島生まれの人形作家・
野口三四郎の作品を再現した
こだわりの張子人形。